

りんりんふえす2015 記念冊子

THE BIG ISSUE Support Live vol.6

りんりんふえす



sing with your neighbors

2015年10月4日(日)

寺尾紗穂/イルリメ/柴田聡子/とんちピクルス/テニスコーツ/ソケリッサ!

ポケットの中のチョコレート

寺尾 紗穂

6回目のりんりんふえす。10回開催を目標にして、去年折り返し地点を迎えた。加えて去年は大盛況で過去最高の来場者数。同じ催しをこれだけ順調に続けてこられたのは、私の心がけというより、りんりんふえす実行委員会メンバーの熱意と細心の賜物だ。そもそも、私は歩いていても自転車に乗っていても一日に二度同じ道を通るのが嫌いだ（子どもの送り迎えなどしているとそうも言っていないが）。レコーディングにしても録り直し回数を増やすほど出来は悪くなり、OKテイクは大抵取り直し3回以内にしか存在しない。

ありえないことだが、もし、一人か二人でりんりんふえす企画をやっていたとしたら、私とその繰り返しに飽きて、次第に打ち合わせ回数も減っていき、小さな教訓はとりこぼし、惨憺たる結果になるのが目に見えるようだ。毎年本番までに同じような打ち合わせを何度も繰り返し、しかし、着実にこまこまとした教訓を盛り込んで会を盛会に導いているのは一緒に動いて引っ張ってってくれる有能な仲間たちがいるからに他ならない。

私はどちらかといえば、ふわふわ風船みたいに旅するのが好きだ。未来について夢想するのが好きだ。10回はやります、と公言したその言葉を重しにして、今は一つ場所でりんりんふえすをやっているけれど、その重しがなくなった時、どんな風が吹いていて、どんなことが始まるのかな、何ができるのかなとすでにわくわくしてもいる。

旅といえば、ソケリッサとめぐる「楯円の夢ツアー」も先月の神戸公演でファイナルを迎えたが、実はまだ終わっていない。鳥取の追加公演に引き続き、11月の金沢公演まで決まっているからだ。りんりんふえすにきて下さる方の多くはすでに承知の事実かもしれないが、改めて説明すると、私は3月に「楯円の夢」というアルバムを出した。これの全国ツアーをソケリッサと回りたいという希望から4月の一ヶ月間、彼らの宿泊費・交通費をまかなうクラウドファンディング（寄付）を募ったところ250万円が集まり、全国沢山のお客さんにソケリッサとのコラボを見ていただくことができた。

熊本は、フィーバーしすぎて、後半お客さんが一緒に踊り始め、シリアスな曲でも私が笑いをこらえて歌うはめになったり、富山は少年がノリノリで踊ってくれたり。私はほとんど弾くほうに集中しているので彼らの踊りの全貌を知ることが出来ないけれど、会場によって、終わった瞬間みると舞台がおじさんだらけになっていたり、女性のお客さんばかり踊っていたりさまざまだった。終了後声をかけてくれる人の中には、目を潤ませている人も少なくなかった。

ライブが終わるたび、お客さんの反応を知りたくてツイッターも見ていたが、特に心に響いたものにこう書いている人がいた。

「連日職場で理不尽に怒鳴られてるけれど、全然平気。寺尾さんとソケリッサのライブを観たから。手の中のチョコレートを少しずつ食べているんだ。しばらくなくならないようなので大丈夫」

これを読んで、私とソケリッサのコラボレーションは夢になれたのかもしれない、と思った。いや、夢という少しふわふわしたイメージだし、希望という少し大げさすぎるかもしれない。夢みたいに甘いけど栄養があって今日明日を生き抜くエネルギーに変わる、まさにチョコレートのようなもの。

大して知名度のない歌手と路上生活経験者の踊り手たちとのプロジェクトにたった1ヶ月で250万円もの大金が集まったとき、私は、人々がこの社会に何を求めているかを教えてもらった気がした。人が人を蔑んだり、排除したり、選別したり、攻撃する社会ではなく、人が人を知り、心を寄せ、共に感じ、困っている誰かがいたらさっと手が差しのべられる社会。これまでラッキーな人生を送ってきた人も、いまいちだった人も、生きている今、自らを生き生きと表現できる社会。

これは異論がでるかもしれないけれど、私はいつも「人はみんなおんなじ」だと思っている。お前はラッキーな恵まれた半生を送ってきたから、そんなお気楽な結論が導き出せるんだ、とつつこまれるかもしれない。生まれてくる環境はもちろん選ぶことができない。その意味で人生は不平等だ。けれど、私がここで言いたいのは、人間が天や神様から与えられる才能や美点、そして欠点や短所についてだ。

自分自身や周りの人々のことを考えてみるにつけ、いつも「何かを多く与えられた分 何かを多く奪われており、何かを多く奪われている分 何かを多く与えられている」ということを感じる。その意味で人間というのは、どこまでも平等に作られているような気がしてならないし、可能性という贈り物がその人に残されている以上、半生を見ただけでその人の人生は判断することができないとも思う。

再びソケリッサの話に戻ると、今ツアーで全箇所を回ったのはリーダーのアオキさんを含めて4名だ。しかし、本当はもう一人のメンバーKさんがいる。Kさんは練習が嫌いで、めったに練習に来ないので、アオキさんは全箇所一緒にまわることはできないと考えていた。しかし、東京公演とKさんの強い希望で広島公演（とおそらく9月21日神戸公演も）は一緒にまわる事ができた。

若い頃は演劇をやっていたKさんは数年前まで競馬狂で、踊っていて転ぶとポケットから馬券が散らばるといふ伝説的なエピソードが周囲の語り草になっている人物だ。練習に心を入れ替えて今度からちゃんと出る、と云っては来ないことの繰り返しだったとアオキさんは語る。東京公演の舞台上のMCで私が競馬や練習のことなどをKさんに尋ねると、「もう競馬ではなく、踊りや、もっと別なことに専念したい」と答えてくれた。「もっと別なこと」について尋ねると「紙芝居が好きなので小児病棟などでの活動をしていきたい」といふ答えだった。

私はとっさに次女が2歳のときに5日間ほど入院したときのこと、そのときの小児病棟のことを思い出した。小さな子たちが管につながれたり、母との別れに泣き叫んだり、少しの間いるだけでも胸の詰まる思いがした。そういう場所で紙芝居がしたい、というのは、Kさんの中にそういう小さな子たちの悲しみの感覚が共有されてあるのだろうと思った。そのKさんの気持ちが尊いと思った。広島公演で広島にどうしても来たかった訳を聞いてみると、原爆ドームを見たかったといふ答えが返ってきた。Kさんの中で平和の問題は小さくないものようだった。

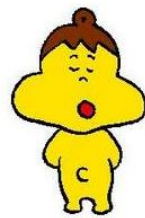
Kさんはまた練習に来なくなるかもしれないし、また競馬にはまってしまう日が来るのかもしれない。それでも、Kさんの心の美しく、真面目な部分はいつまでもKさんの中に変わらずあるのだと思う。それがいつか綺麗に花咲く日が来ることを願わずにはいられないし、何か手伝えることがあるのなら喜んで協力したいと思う。

楯円のツアーの最中、かつてはジャニーズの振り付けやダンサーをしていたアオキさんを紹介するとき、私は何度か「華やかな世界を離れて、こういうソケリッサの活動をされています」といふことがあった。そのたびにアオキさんは「こちらも十分華やかですよ」と爽やかに笑った。そのとおりでと思った。もちろん何百人という会場ではないけれど、全国を回った会場はどこも沢山のお客さんに見守られていた。そして、寄付をしたけれど会場に来られない方も含めて沢山の方の温かな期待に寄り添われていた。全国のあちこちに、大切な素敵な縁が生まれていった。

私がソケリッサやりんりんふえすと一緒に夢見る社会は、虹の彼方にあるのではない。ポケットに入れたチョコレート確かさで、手を入れたら触れることのできる確かさであなたの傍に、今日来てくれた方たちの中に在ると思っている。夢と希望のはざまにあるチョコレートのような、温かな気持ちを今年も沢山の人とアーティストと一緒に分かち合い、持って帰っていただけたら何よりも、嬉しい。

ご来場ありがとうございます。

りんりんふえす2015 出演アーティスト



柴田聡子

「いいところにさそっていただいて、うれしいです。たのしみ
にしています」



ソケリッサ

「今回も出演させていただきます！！
踊りますよー。みなさんとの出会いを楽しみにしています。」



寺尾紗穂



テニスコート

「♪♪♪」

「寺尾さんの誘いならだいたい断りません」



とんちピクルス

イルリメ



「この度りんりんふえすに参加することができて大変嬉しく思います。これまで街角でビッグイシューを販売する人を見かけることがあっても、恥ずかしながら雑誌の内容も販売している方の背景も知らず、気になりつつも通り過ぎていました。今度見かけたら買おうと思います。似たような感じで最近街角で見かけ気になる人にネットカフェの看板を持って所在なさがに立っている人たちがいます。人を見ただ目で判断してはいけないが、見たところネットカフェの店員ではなさそうだし。もしかしたらネット生活者で、利用料が払えず、体で払わされてんのかなあ、などと考えながら通り過ぎていきます。ともかく今日はよろしくお祈いします!!」

これまでの軌跡①

りんりんふえす 2013

Sing with your neighbors

THE BIG ISSUE support live vol.4

2013年10月13日(日)／梅窓院／来場者 約200人



Sing with your neighbors
THE BIG ISSUE Support Live vol.4

2013年10月13日(日) 外苑前 梅窓院 祖師堂

開場 14:00 開演 14:30 前席 2,000円 当日 2,500円 (BIG ISSUE ¥300円)

加川良/NRQ/七尾旅人/寺尾紗穂/ソケリッサ/石橋幸

フライヤーデザイン／本秀康

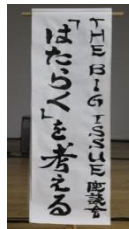
●ツイッターでの反応

仕事を見直す多彩な視点。自立生活サポートセンター「もやい」で働いている小野寺さんの笑顔と声がとても美しい。仕事をしている自分にはない笑顔。仕事、生活、人生、幸せ、人とのつながり、について、ちょっと考えてしまった

ソケリッサという路上生活者及び路上生活経験者によるダンスグループ。暗黒舞踏のようで目が離せなかった。涅槃を超えて極楽浄土に行ったら、こういう具合に人々が踊ってるのでは？と思えてならない

1才娘と二人で行った。娘の昼寝時間と重なり徐々にゆっくり聞けた寺尾さんの歌で浄化された。七尾旅人さんのライブ時は起きた娘が遊んだりちょっと騒いだが、ステージから「子供が泣いてもいい」と言っておられて穏やかな気持ちでいられた。

●当日の写真



これまでの軌跡②

りんりんふえす 2014

Sing with your neighbors

THE BIG ISSUE support live vol.5

2014年12月7日(日) / 梅窓院 / 来場者 約300人



●当日の写真



●ツイッターでの反応

りんりんふえす、寺尾さんも再び登場、ソケリッサも出てきて、タケオも出てきて、踊る、叩く、歌う、揺れる、ステージも会場大フィーバー。走り、踊り、はじけるソケリッサ。タケオ、止まらない、止められない(笑)

炊き出しのおにぎりと豚汁が、とっても美味しかったです。特別なものではないのだろうけれど、ほっとする味。コーヒーとクッキーも、美味しかったです。パンは、おうち帰ったら食べます。皆さんの心遣いがとても嬉しかった。

「住まい」「つながり」「仕事」「いきがい」、幸せとはなんだろう。もしお金や場所や血縁などをすべて気にしない場合、ぼくらはなにを望むだろう。ぼくらはなにを選ぶだろう。りんりんふえすに来て、座談会を聞きながら考えています。



THE BIG ISSUE Support Live vol.5

2014年12月7日(日) 東京 外苑前 梅窓院 相師堂

開場 14:00 / 開演 14:30 / 前売:2,500円 / 当日:3,000円(BIG ISSUE代 350円増)

Gotch / 寺尾紗穂 / あだち麗三郎カルテット / 新倉社朗 / ソケリッサ / 三輪二郎

フライヤーデザイン / 本秀康



有限会社 ビッグイシュー日本

ビッグイシューはホームレスの人々にモノやおカネではなく「チャンス」を提供する事業です。

『ビッグイシュー日本版』という質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態にある人の独占販売とすることで、「ホームレスの人しかできない仕事」をつくっています。

1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊しました。しくみは、『ビッグイシュー日本版』をホームレスである販売者が街頭で販売します。1冊350円の雑誌を売ると半分以上の180円が彼らの収入となります。最初10冊は無料で提供し、その売り上げ（3,500円）を元手に、1冊170円で仕入れていただきます。

社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されると私たちは考えています。販売者となった人たちは私たちのビジネスパートナー。このような考えで、私たちは日本を居心地のいい、チャンス「豊かな」社会に、そして安心して生きられる社会に変えたいと思っています。

街角でビッグイシュー販売者を見かけたら、ぜひお声をかけてみてください。



【URL】www.bigissue.jp

【本社】〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6344-2260

【東京事務所】〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6802-6078



認定NPO法人 ビッグイシュー基金

『ビッグイシュー基金』とは、有限会社ビッグイシュー日本を母体に設立された非営利団体です。ビッグイシュー日本版創刊から約4年後の2007年に設立されました。ビッグイシュー日本の活動を通して、ホームレスの人々の自立には、就業を含めた総合的なサポートが必要であると考えたからです。

2008年4月にNPO法人の認証を、2011年には国税局から認定を受けました。これによりNPOビッグイシュー基金への寄付は税控除が受けられるようになりました。貧困問題という大きな氷山の頂点ともいえるホームレス問題の解決から取り組むことで、ビッグイシュー基金は、「失敗しても何度でも再チャレンジできる」「誰にも居場所と出番がある」社会の形成を目標として活動しています。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多面的なサポート事業を行うほか、生きやすい社会をととのえるため、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言活動や市民が活動に参加する機会の提供などを行っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。そして、ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。

まず、路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。そして、生きやすい社会をつくるために、一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？



【URL】www.bigissue.or.jp

【事務局本部】〒530-0003大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6345-1517

【東京事務所】〒162-0065新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6380-5088



認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい

つながりの中で生きるために

経済的に貧しく人間関係においても孤立している…。人間関係の貧困を象徴する「アパートに入居したくても連帯保証人がいない」という問題は、ホームレス状態からの自立を妨げる大きな要因です。

〈もやい〉では、アパート入居に際し連帯保証人を引き受けると共に、共通の課題を抱える当事者同士の交流を通じて、社会的な孤立状態の解消を目指しています。人間関係を新しく紡ぎ、安心して地域社会での生活を築き、「困った時はお互い様」と言えるつながりを作るための活動を行っています。「自立」とは、ひとりで生きることではなく、つながりの中で生きること…それが私たちの活動指針であり、理念です。

～活動内容～



入居支援事業

路上・公園・施設・病院など広い意味でのホームレス状態にある方がアパートでの生活を始めるにあたり、賃貸借契約時の連帯保証人や緊急連絡先の引き受けをおこなっています。



生活相談・支援事業

毎週火曜日には事務所で面談による相談に応じています（面談無料）。また、毎週火曜日と金曜日に「もやいホットライン」を開設し、生活に困窮している人々のさまざまな相談に応じています。



交流事業 ～居場所づくり～

誰でも気軽に立ち寄れる「寄り場」として交流サロン「サロン・ド・カフェ こもれび」をはじめ、さまざまな居場所を定期的にかけています。

「コーヒー焙煎プロジェクト」では、いろいろな境遇にあるメンバー達で、フェアトレードコーヒー「こもれびコーヒー」の焙煎・販売にも取り組んでいます。丁寧なハンドピックにより厳選された豆の味わいを、是非ご賞味下さい。



広報・啓発事業

地方自治体などの公的機関に対し社会的弱者である当事者の立場から提言を行ったり、ニュースレターやウェブサイトなどを通じて情報発信を行います。また、学校や地域での講演・啓発活動も積極的に行っています。



特定非営利活動法人

自立生活サポートセンター・もやい

〈事務所〉〒162-0814 東京都新宿区新小川町7-7 アゼリアビル202号室

【TEL】03-3266-5744 (火・金)

【URL】<http://www.npomoyai.or.jp/>

資金カンパを随時受け付けております。クレジットカードのご利用も可能になりました。詳しくはホームページをご覧ください。

社会慈業委員会 ひとさじの会



わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立したお念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。

◇活動内容

- ① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
- ② 浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
- ③ 定例会(毎月)・勉強会・講演会など
- ④ 寺院による米支援の呼びかけ ー災害用備蓄米・古米の活用推進ー
- ⑤ 寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくり
- ⑥ 東北被災地支援活動 ー祈りの道プロジェクト・子ども会・仮設カフェー
- ⑦ プチ修行 ーお坊さんと一緒に念仏を称える為先会ー



◇ボランティアの募集 ー心をこめてむすびますー

ひとさじの会では、自分たちでご飯を炊いて、ひとつひとつ丁寧におむすびをつくってお配りし、より多くの人とのご縁を「むすんで」いきたいと考えています。この活動にボランティアとして一緒に活動していただける方、ぜひご連絡ください。よろしく願い申し上げます。



活動日程: 毎月第1、第3月曜日(炊飯15:00~ 配食20:00~22:00)
配食集合: 浅草吾妻橋たもとの交番付近
連絡先: 090-6115-8147 吉水岳彦(事務局長)

【URL】 hitosaji.jp 【E-mail】 hitosaji@son.petit.cc

祈りの道 気仙三十三観音霊場 復興プロジェクト



◇活動趣旨

気仙三十三観音霊場も、東日本大震災において、9つの霊場が津波の被害を受けました。お堂や管理者の住居が被災したり、観音像が流されたりと被害の程度は様々です。

ひとさじの会では、人々の心のよりどころである観音霊場を再興し、地元の方々に、亡くなった方々の慰霊のため、そして、ご自身の心の安寧を祈るためにお参りを頂きたい、また、全国の方々に参り頂き、地域の活性化に少しでも寄与したいと考え、「祈りの道 気仙三十三観音再興プロジェクト」を始動させました。現在まで、①霊場マップの発行、②霊場HP作成、③朱印・納経用紙の作成、④講演会の実施、⑤徒歩巡礼道の整備を行って参りました。活動の詳細につきましては、下記のHPをご覧ください幸いです。

◇気仙三十三観音霊場とは

観世音菩薩とは、衆生の苦しい悲しいという声を聞き、それぞれの人にあった姿に変化して、悩み・苦しみを救い、願い事を叶えてくれるという仏さまです。観音霊場の巡拝は、平安時代に始まったと伝えられますが、岩手県の陸前高田市、大船渡市、住田町のいわゆる気仙地域にも、江戸時代半ばの享保三(1718)年、高田村の検断役佐々木三郎左右衛門知則が、父母の追善供養のために選定し、「気仙三十三観音霊場」が開かれました。平安時代、征夷大將軍として東北に派遣された、坂上田村麻呂に関わる伝説を持つ「気仙三観音」や、江戸時代に東北の大富豪として名を馳せた稲子澤家がお祀りしていた百一観音など、様々な物語を抱え持ったたいへん興味深い霊場です。ぜひ、気仙の観音様をお参り頂きたく存じます。



キーン・ジャパン合同会社

〒150-0035 渋谷区鉢山町13-16

【TEL】 03-6416-4808

【URL】 <http://www.keenfootwear.com/ja-jp/>



◇**ABOUT KEEN** 2003年に創業者のローリー・ファーストによって設立。アメリカ・オレゴン州ポートランドに本拠を置き、アウトドアを楽しむ人たちにに向けた革新的な商品を提供しています。「サンダルはつま先を守ることができるのだろうか？」この想いと、もの作りに対するチャレンジによって生まれたのが、創業モデルのNewportです。私たちは「アウトドアは屋根のない場所すべて」と考え、様々な人たちがアウトドアに自由に参加することへのサポートのために、KEENのアイテムが役立ってくれることを願っています。



◇**HybridLife** 「CREATE 創造すること」、「PLAY 楽しむこと」、「CARE 気づかうこと」という3つのキーワードを組み合わせた《ハイブリッド・ライフ》というコンセプトのもとにKEENのシューズは生み出されています。

◇**Hybrid.Gare** 人や地球を気づかうことは、より良い変化をもたらすことにつながります。このような信念のもとにKEENは世界各地で活動続ける自然保護団体や、社会貢献活動をおこなうNPO団体に対して積極的な支援を継続しています。

<越後妻有 大地の芸術祭の里> 3年に1度開催される世界最大規模の国際芸術祭《大地の芸術祭》にKEENは協賛・参加をしています。空間作品「DEAI」の運営管理や越後妻有地域の棚田を守る「まつだい棚田バンク」への参加、オフィシャルコラボレーション商品の売り上げを芸術祭の運営費に役立てるなど、さまざまな試みを通じて深く関わっています。

越後妻有 大地の芸術祭の里 <http://www.echigo-tsumari.jp/>

<ビッグイシュー日本> 販売するホームレスの人たちに靴を提供し、足元からビッグイシュー日本を支えています。今年の「りんりんふえす」では、KEENスタッフと一緒にビッグイシュー販売者が「イベント販売体験」として、接客&シューズ販売にチャレンジします。チャリティ物販の売上はすべてりんりんふえす実行委員会に寄付され、運営費の一部として活用されます。



NPO法人豊島子ども WAKUWAKUネットワーク



地域を変える 子どもが変わる 未来を変える

豊島子どもWAKUWAKUネットワークは地域の子どもの地域で見守り育てるために設立いたしました。相対的貧困率は悪化しつづけており、2014年の厚生労働省の発表によると、16.3%であることが明らかになりました。教育格差、貧困の連鎖が広がっています。生活保護を受けている、もしくは、年収が生活保護費とかわらないワーキングプアの家庭で育つ子どもが、6人に1人いるのです。

地域の子どもの、地域が見守り、学びや暮らしを有機的に支えるネットワークをつくり、子どもの未来を明るく変えていきたいと願っています。さまざまなカタチの居場所を通じて、信頼できるおとなや若者につながったとき、一人の子どもの人生が大きく変わる可能性があると思っています。

要町あさやけ子ども食堂



あさやけ子ども食堂は、子どもが1人でも入られる食堂です。家で1人で食べるより、みんなでワイワイ食べましょう。毎月、第一と第三水曜日の17:30~19:00オープン。どなたでも、300円で栄養バランスのよい夕食を食べられます。

教育格差による貧困の連鎖をくいとめるために、無料学習支援を実施しています。家庭の状況に左右されることなく学びの場を保障します。学習が遅れている子、勉強が苦手な子、ひとりで宿題ができない子など、地域の気になる子をどうぞ連れてきてください。学生や地域住民が、丁寧に対応します。

無料学習支援



池袋本町プレパーク



プレーパークは「冒険遊び場」とも呼ばれ、土・水・火・木など様々な要素がある空間です。ここでは子どもたちの好奇心や欲求を大切に、やりたいことができる限り実現できるように運営しています。プレーパークには禁止事項の看板は立っていません。禁止事項ばかりだと楽しい遊びができないからです。

【URL】<http://toshimawakuwaku.com/index.html>

(公財)浄土宗ともいき財団



「社会事業宗」浄土宗。その象徴として100年前に設立された当財団では、ともに助けあい、支えあう「ともいき社会」の実現を目指してさまざまな公益活動を行っています。

お寺は人と人との縁を結び、みんながともにいきる場所です。地域の拠点となり、そこに住む方々を元気にするための取り組みをお寺から発信していきたいと考えています。

【URL】 <http://http://tomoiki.jp/>

お寺から
まちおこし

- ・地域活性化
- ・助成

心のケア

- ・電話相談
- ・災害時支援

国際支援

- ・寺子屋建設
- ・ミャンマー祭り



冊子「縁JOYおてら」
(無料配布)

全国青少年教化協議会



全国青少年教化協議会（略称・全青協）は、仏教教団60余宗派と関連企業が協力し、青少年の豊かな生活と未来を願い1962年に結成（翌1963年設立認可）された公益財団法人です。2013年には創立50周年を迎え、同年12月2日に公益財団法人に移行いたしました。

いじめ、不登校、少年犯罪など、ますます多様化する青少年に関する課題に対し、仏教や仏教者が果たす役割を常に考え、青少年はもとより彼らとともに歩む青少年教化活動者を支援していきます。

また付属機関として2008年に「臨床仏教研究所」を立ち上げ、現代社会において僧侶や仏教者が果たすべき役割について研究し活動者の養成に取り組んでいます。 【URL】 <http://www.zenseikyo.or.jp/>

【わたしたちのねがい】

世代を超えて伝えたいことがあります 底ぬけに人を信ずる人間となろう
よろこんで与える人間となろう いのちを大切にする人間となろう
考えぶかい人間となろう しめいに生きる人間となろう
規律あるしあわせをよろこぶ人間となろう

コミュニティホーム ベてぶくろ



「べてぶくろ」は、「べてる」と「いけぶくろ」をかけた名称です。べてぶくろでは、その「べてる」が大事にしているものを受け継ぎつつ、東京・池袋をスタート地点として、共同住居やグループホームの運営、当事者研究、べてるの商品販売等をはじめ、独自の活動を広げています。【URL】<http://bethelbukuro.jp>

池袋あさやけベーカリー



路上生活を経験したり、こころや身体に病気や障がいを持つ仲間と地域のパン屋さん、そしてたくさんの人とつながりはじめたパン屋です。

【URL】<http://ameblo.jp/asayakebakery>

在日ベトナム仏教信者会



日本で暮らし、働いているベトナム人コミュニティの団結を固めるとともに、ベトナム文化の伝統と民族の特色、風俗習慣をしっかりと理解するため、日本で生まれ育ったベトナムの子供たちにベトナム語の能力をつけさせ、維持し、発展させることにつとめています。また日本に留学して困難な状況にある留学生にも支援をしています。さらに、仏法の研究や精神修行においてベトナム仏教徒を導き、ベトナムの国家や人々を発展させるのに貢献するソーシャルワークに参加し、ベトナム仏教教会が日増しに力強く発展するよう仏事の支援を行ってゆきます。今回のイベントでは手作りの揚げ春巻きを提供しています。

オリジナル散華(入出証)



製作

社会福祉法人東京都知的障害者育成会
新宿区立高田馬場福祉作業所

〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-2

【TEL】03-3367-2939 【FAX】03-3367-2960

【URL】<http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html>

デザイン

本秀康(漫画家、イラストレーター、チラシデザイン)

鴨井猛(イラストレーター、散華デザイン)

本イベントでは、チケット代わりに出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

作成は、高田馬場福祉作業所(障害福祉サービス事業/就労継続支援B型)に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧に作りくださった一品です。お持ち帰りになった後は、本のしおりなど、さまざまなご用途にお使いいただければ幸いです。



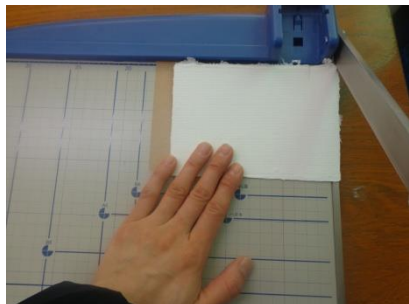
【作業①】牛乳パックから取り出したパルプをミキサーにかけるところ



【作業②】パルプから紙を漉いた後に、水分を絞っているところ



【作業③】紙を葉書サイズ大にしたものを窓ガラスに貼っているところ



【作業④】乾いたパルプを葉書サイズになるように切断しているところ



【作業⑤】葉書に両面カラー印刷したものを、散華の形にハサミで切っているところ



【作業⑥】切り終えて散華の形になったものをストックしているところ



りんりんふえすサポーター

寄付

光照院(東京都台東区)
龍原寺(東京都港区)
良感寺(東京都豊島区)
大蓮寺(神奈川県川崎市)
長昌寺(大分県杵築市)
長圓寺(東京都台東区)
本覚寺(青森県今別町)
法源寺(静岡県富士市)
光専寺(東京都武蔵野市)
常行院(千葉県松戸市)
心行寺(東京都府中市)
雲上寺(宮城県塩竈市)
正円寺(群馬県沼田市)
甘露寺(和歌山県紀の川市)

看板・めぐり台の書

大善寺(青森県板柳町)

協力

認定NPO法人 ビッグイシュー基金
有限会社ビッグイシュー日本
認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
社会慈業委員会 ひとさじの会
浄土宗梅窓院
NPO法人豊島子ども
WAKUWAKUネットワーク
キーン・フット・ウェア株式会社
コミュニティホーム べてぶくろ
池袋あさやけベーカリー
高田馬場福祉作業所
公益財団法人 浄土宗ともいき財団
全国青少年教化協議会
在日ベトナム仏教信者会
浄土宗新聞

タイムテーブル



●一部公演

- 14:30～ 寺尾紗穂
- 15:00～ とんちピクルス
- 15:30～ 柴田聡子

●座談会

- 16:20～ ビッグイシュー座談会

●二部公演

- 18:00～ ソケリッサ！
- 18:30～ テニス Courts
- 19:00～ イルリメ ※20:00までに完全終了

【THE BIG ISSUE 座談会】

- ・テーマ
こどもの未来を支えるために
- ・パネラー
寺尾紗穂 /シンガーソングライター
稲葉剛 /NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事
佐野未来 /有限会社ビッグイシュー日本 東京事務所マネージャー
- ・コーディネーター
吉水岳彦 /ひとさじの会事務局長、大正大学非常勤講師、浄土宗光照院副住職
- ・ゲスト
栗林知絵子 /NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長
ビッグイシュー販売者、他

※皆さまへのお願い※

当日、ホール内での飲食は禁止となっています。会場外もしくはロビーの飲食スペースをご利用くださいますよう、どうかよろしくお願いいたします。